

不応行動があるKさんの コミュニケーションを 支援する

4年間のタブレット活用を通して見えてきたこと
5年目の取り組み

長野県稲荷山養護学校 青木高光

長野県稲荷山養護学校

知肢併置校

魔法

プロジェクト

参加5年目



iPad導入時から 共有してきた視点

コミュニケーション

他の手段で代用がきかないもの

教科学習

予習、復習、宿題など
家庭につながるもの

視覚支援

印刷された絵や写真などより
効果があること

余暇

何かを我慢した後のご褒美など、iPad
自体が目的になっていないこと





- Mさん
- 小4から
iPadを活用を
開始

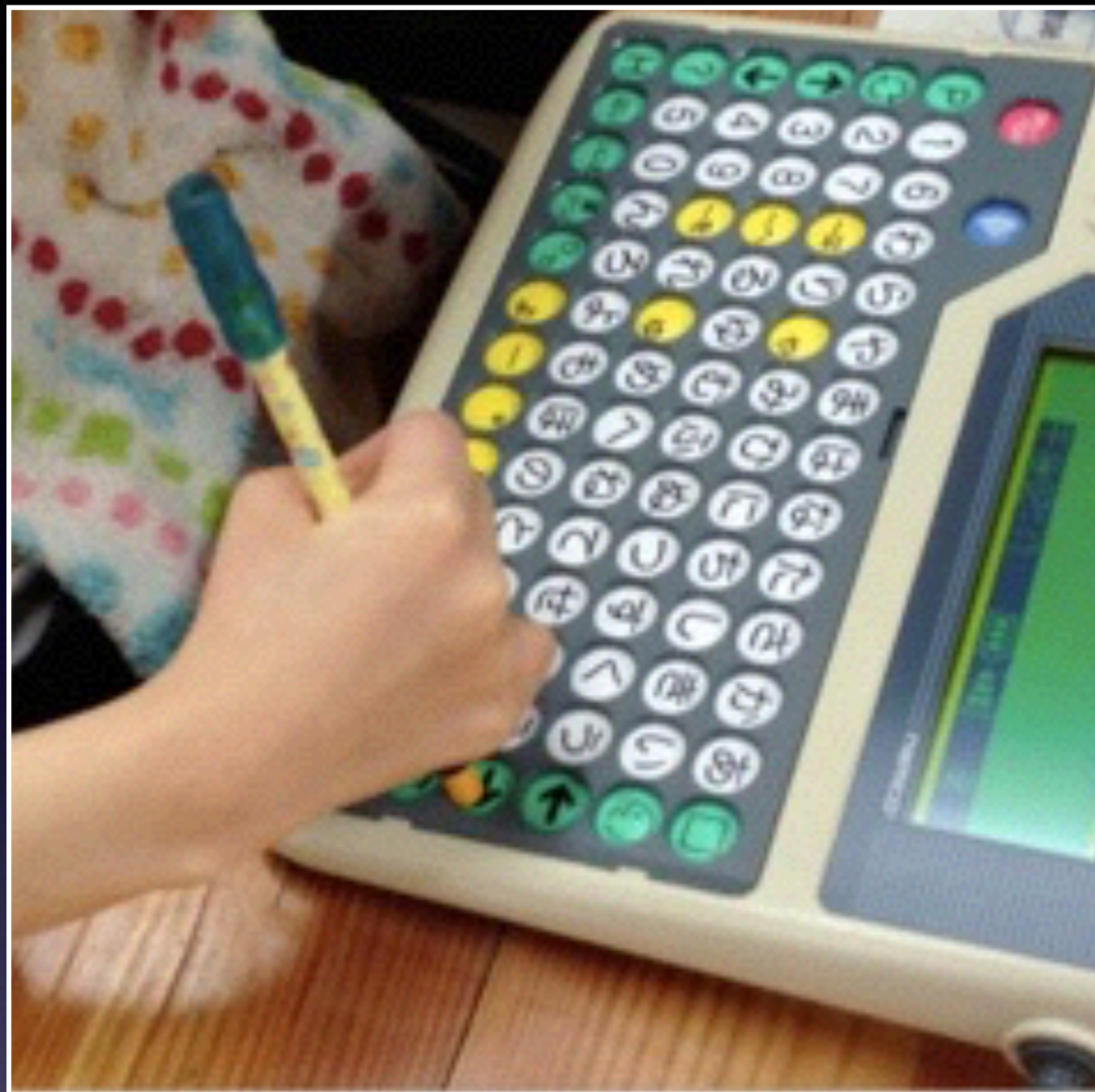


コミュニケーション

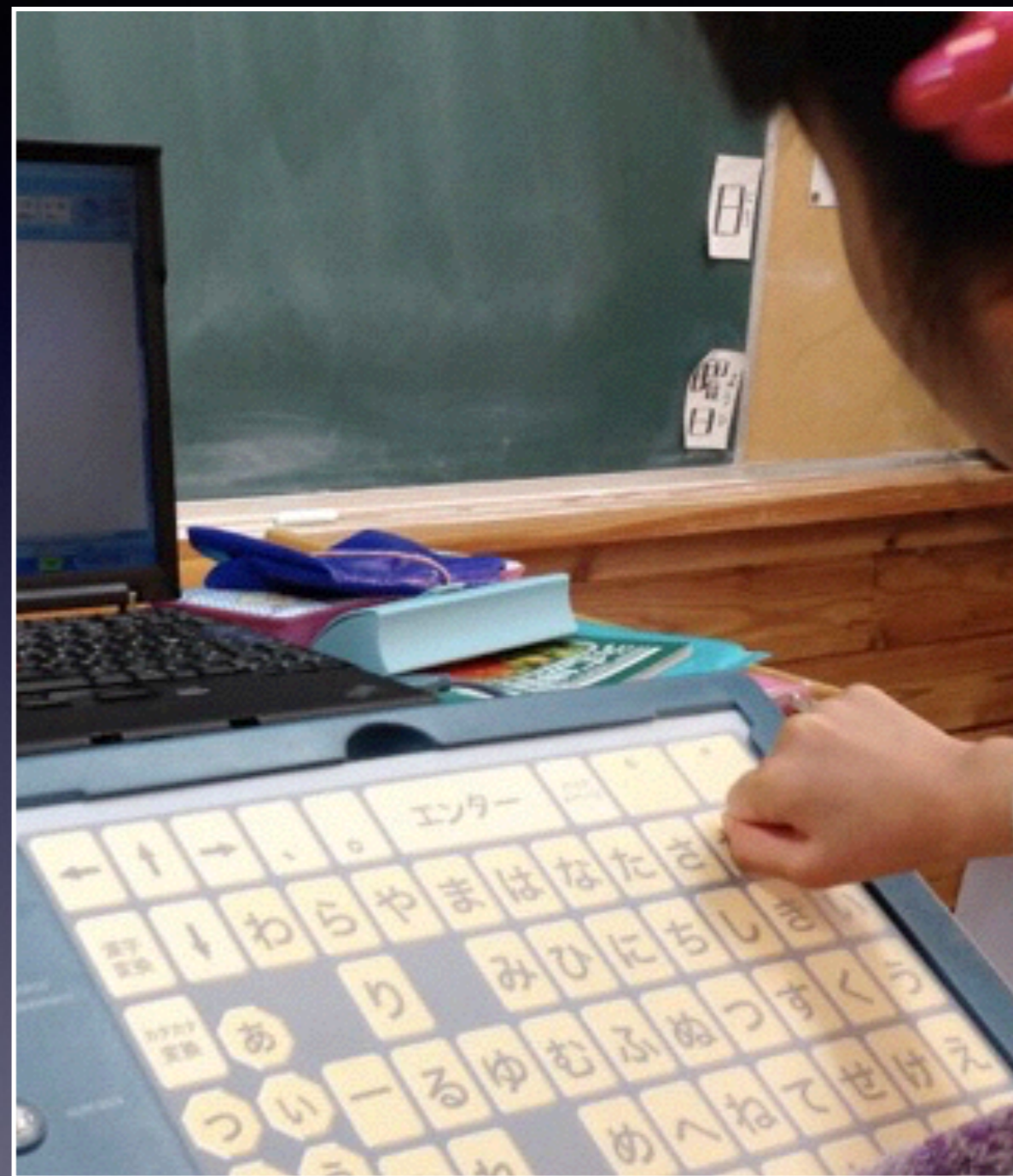
教科学習

視覚支援

余暇



- 旧トーキングエイドも試した
- 機器は見た目も大切



コミュニケーション

教科学習

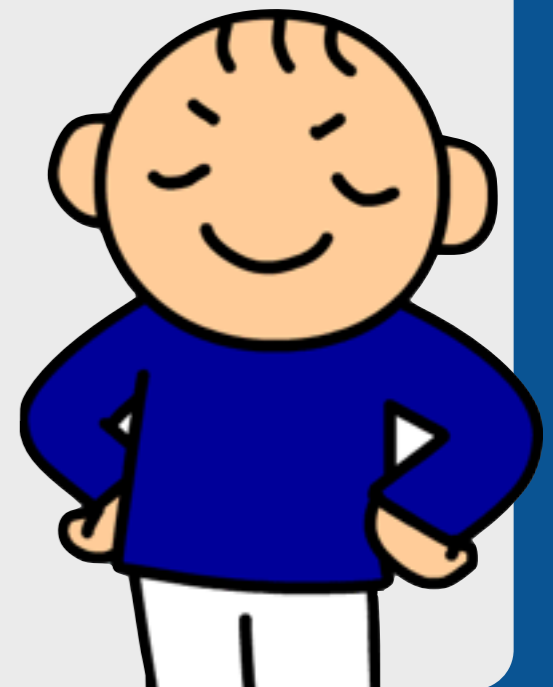
視覚支援

余暇

その後

小学部で Talking Aid for iPadを使い自己表現できる！

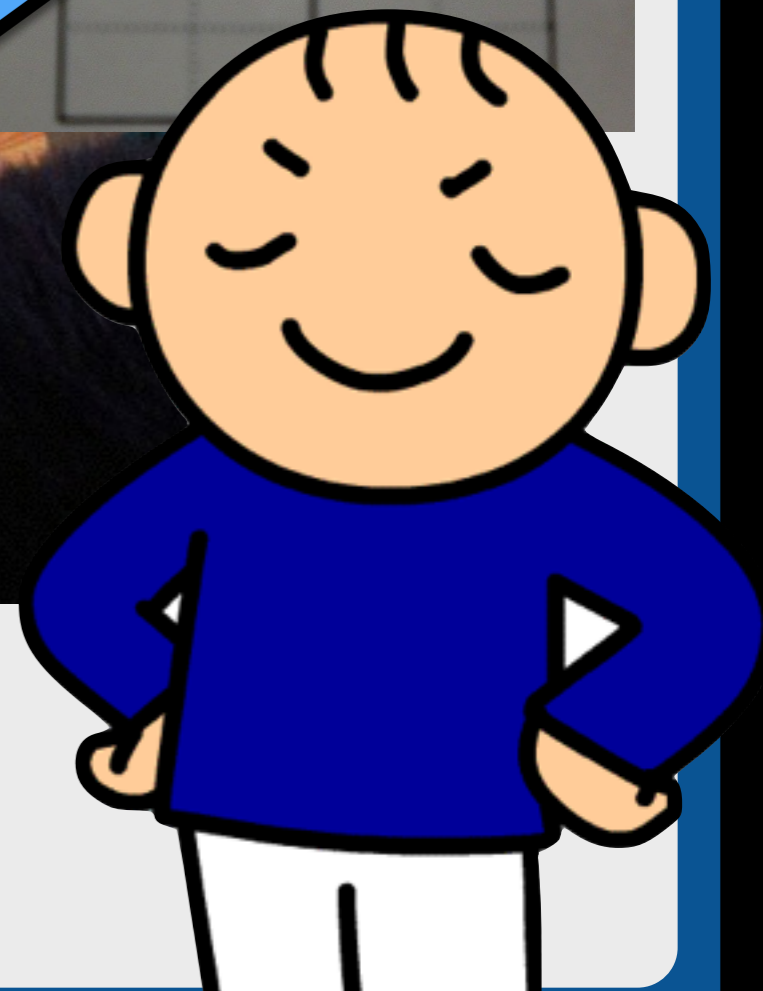
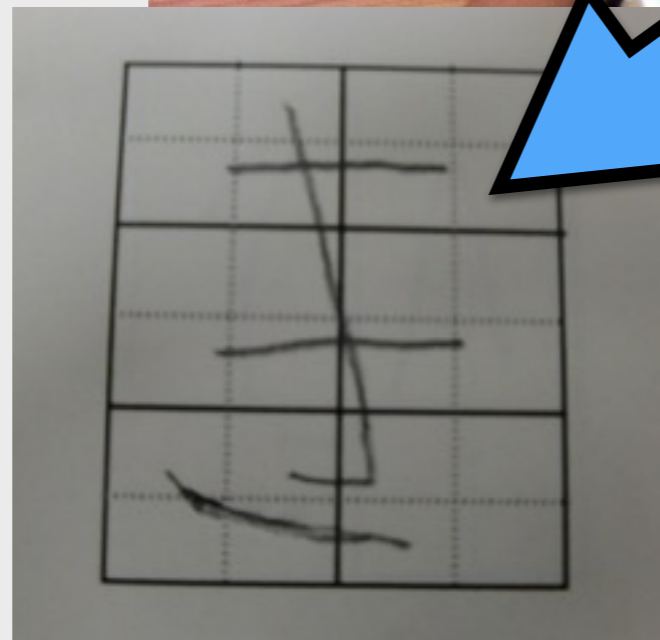
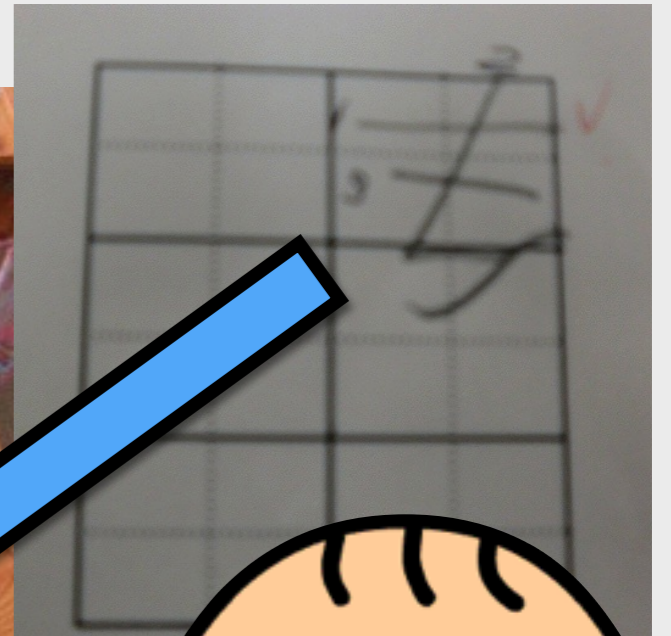
中学部では更に積極的に使用
標準の読み上げ機能を使う



これまでの実践 知的障害

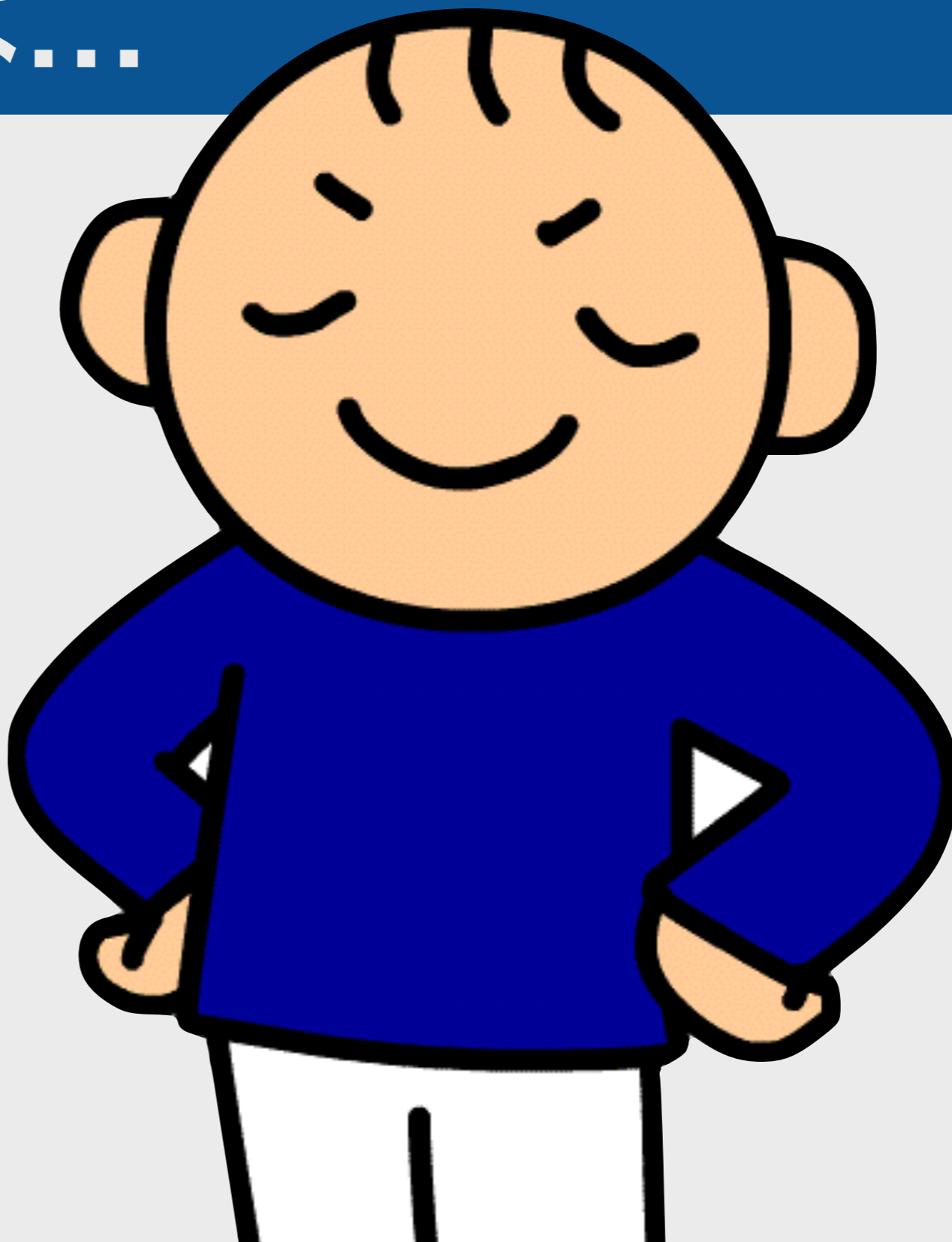
まったく書こうと
しなかった
ひらがな

iPadの導入後
積極的に
文字を書く
字形が
劇的に改善



ということとは...

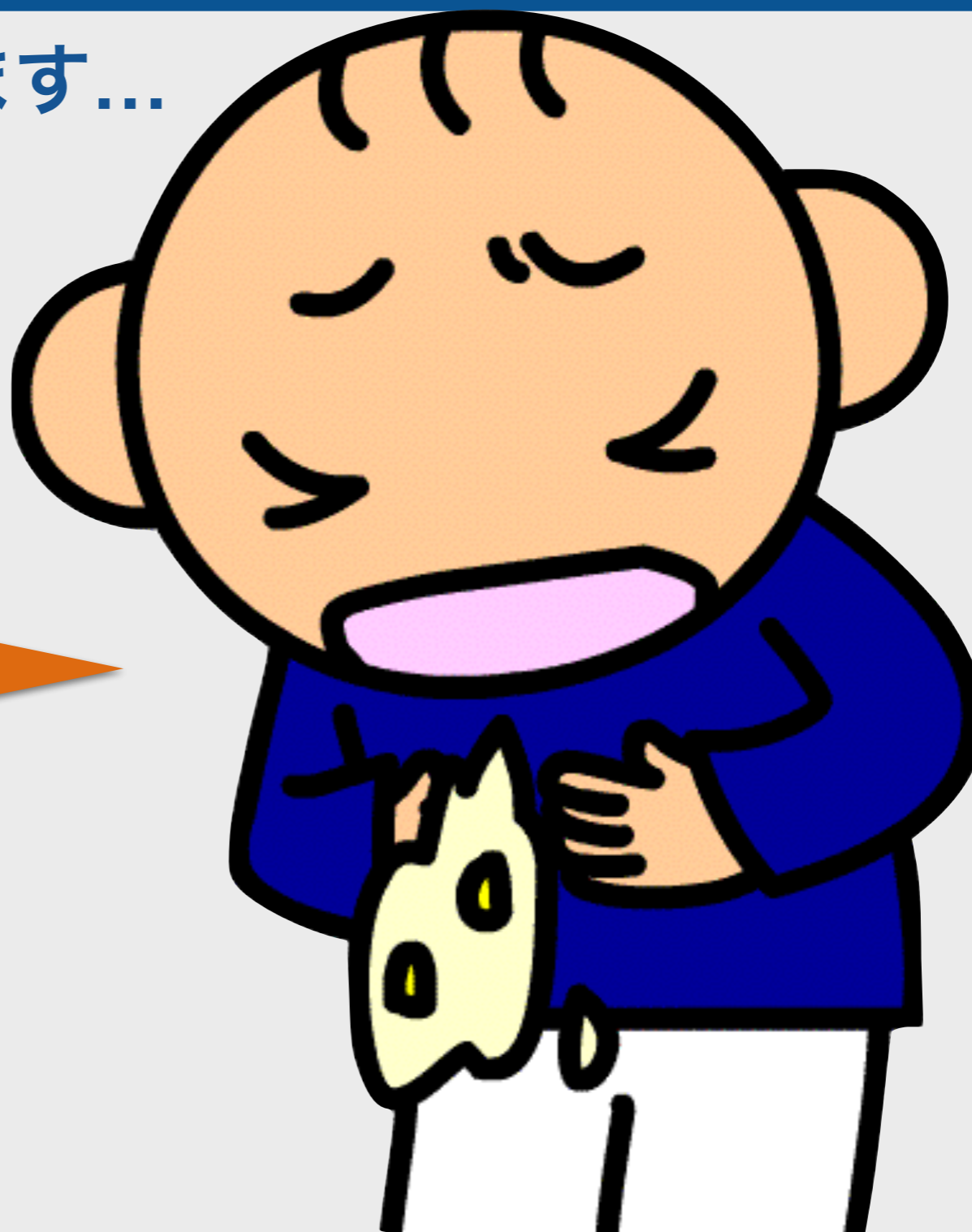
稲荷山は
成功事例
の宝庫？



実は....

いろいろと失敗もしています...

ごめんなさい
これまでの失敗
を正直に
吐き出します



よくある失敗

- ・ 特定のアプリは上手く使えているが、発展がない

「5分歯みがき使っているだけ」

「クラス全員これで歯を磨いています！」



「〇〇ルートがとても好きです！」

「文字を追加せずに、毎日同じこと」



→ピンポイントの成果はあっても、

導入コストを考えたら、これってそんなに凄いこと？

かなり対応が難しい失敗事例

- ・ iPad、買ったけど学習には使えてない

「親御さんが期待して買ってくれたけど」

(まだ学習や生活の中にどう組み込むかプランもないのに)

「YouTube専用機になってしまった」

「他のアプリを使ってもらおうとすると、怒る！」

→結果、余暇のツールとしてだけ使う

(CDやビデオと何が違うのか分からない)

今回の成果報告は

- iPadの導入にある意味

生徒には申し訳ない限り...

一度**失敗**して、
有効な学習ツールとして定着させられなかった事例

だが、そういった事例を失敗として放置せず、
リカバーすることは可能か？

という報告です

対象生：Kさん

中学部2年生 知的障がいを伴う自閉症

- 大声、他害行為などの不適応行動がある
- 発語が無く、明確な意思表示ができない



でも、好きな活動（明確な活動）には短時間だが丁寧に取り組める。

対象生：Kさん

中学部2年生 知的障がいを伴う自閉症

小学部時代の担任は
「声がけで動ける」
「大体のことは理解できている」
と.....

不適応行動があると、クールダウン場所に移動。そのまま不活発な時間が一時間以上続くこともめずらしくなかった

Kさんの不応行動の背景

	不応行動	担任の対応	その他の対応	Kさん個人用の視覚支援
小5	パニック 他害行為	パニックが起きてから マッサージで 落ち着かせる	その都度言語指示	×
小6	パニック 他害行為	パニックが起きたら 複数人で押さえ込む	常にマンツーマン	△
中1	パニック 他害行為	パニックが起きないように、好きな活動中心	言語指示を減らす	導入
中2	他害行為	代替行動を教える	視覚的な スケジュール	○

対象生：Kさん

適切なコミュニケーション手段が保証されて来なかった

- 理解：言葉による指示、問題が起こってからの対応
- 表出：シンボルを提示され、選択させられるだけ

太田ステージIII-1

適切な視覚支援があれば
マンツーマンでなくとも
スケジュールを理解しての行動や、
意思の表出が十分できるはず

映像や音を組み合わせて扱えるタブ
レットは、彼の有効なコミュニケー
ション手段になるはず

困難



ねらい

大声、他害行為
などの不応行動

発語が無く、
明確な意思表示ができない

スケジュールや手順を理解した上で、自分から好きな活動に一定時間取り組むことができるようになる。

補助手段を用いて、1語文での自発的な要求表出ができるようになる。

事前の状況→活動内容

①

周囲の状況や声がけを手がかりにして活動しているが、**流れを理解して楽しく取り組める活動が殆どない。**

→スケジュール
理解

②

明確な**意思表示手段がない。**

→表出手段の保証

③

大きな声や音をたてる不適応行動、突然隣の人を叩いたりする**他害行為**がある。

→背景の分析と
誤学習の修正
代替行為の学習

事前の状況→活動内容

①

周囲の状況や声がけを手がかりにして活動しているが、流れを理解して楽しく取り組める活動が殆どない。

→スケジュール理解

②

明確な意思表示手段がない。

→表出手段の保証

③

大きな声や音をたてる不適応行動、突然隣の人を叩いたりする他害行為がある。

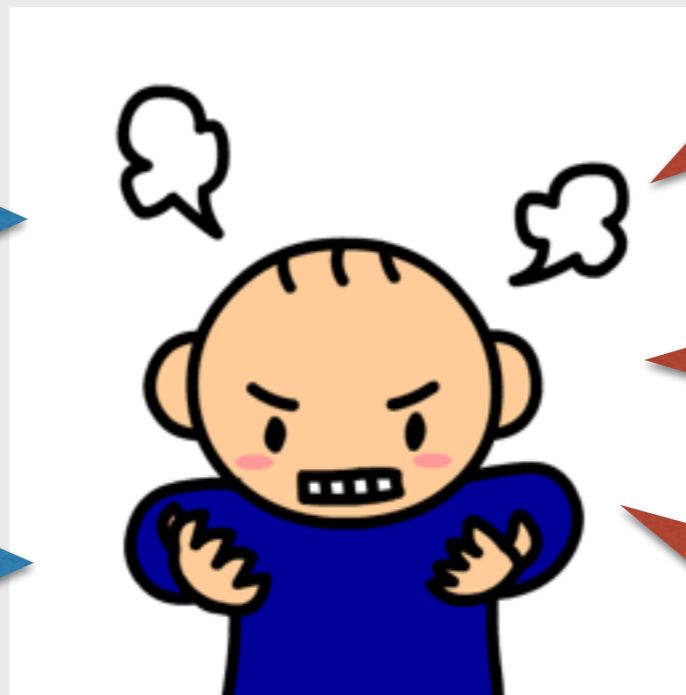
仮説：不安感や不満を表せないことが、この原因になっているのだろう

→背景の分析と誤学習の修正
代替行為の学習

Kさんの困難を一言でいうと

分かるように伝えてくれない！
次になにやるのか不安！
なんか勝手な指示されるけど意味分かんない

伝えたいことあるのに、方法が無い！



意味分かんないから声出すと、注意される！

注意されて嫌な気分だから手を上げると、みんな何も言わなくなる

よく分からないけど、意味分かんないことやらされるよりいいか！



この悪循環

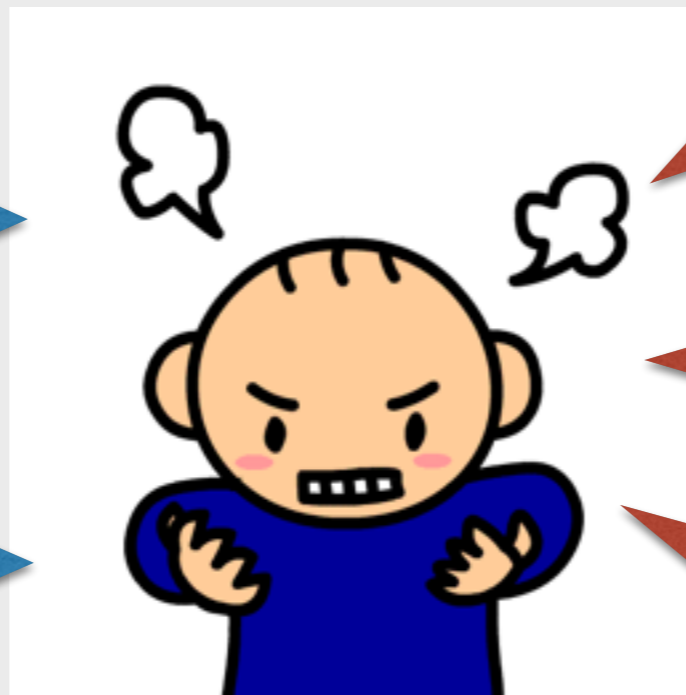
何をすべきか

視覚的スケジュール
ジュール

わかるように伝
くれない！
になにやるの
か不安！なんか
勝手な指示され
るけど意味分か
んない

伝えたいことあ
るのに、方法が
無い！

AAC手段



意味分かんないから声出
すと、注意される！

注意されて嫌な気分だか
ら手を上げると、みんな
何も言わなくなる

よく分からな
味分かんない
れるより

代替行動と
トークン
による強化



事前の状況→活動内容

④

6学年末にiPad購入。

YouTubeを観たり、無目的にタップしたり

→再導入の手だてが必要

今回のチャレンジの一つ

残念ながら、本校にはこういった生徒が他にもいるし、他の学校でも時々こういった事例を聞きます

何か具体的な方法を一つ示せないか？

保護者が活用できる環境作りも重要な課題。

iPadが伝達手段になれば、卒業後も家庭や進路先で使えるのではないか

活動内容①

スケジュール理解
のための取り組み

○昨年度末から学級で取り組んでもらっている3日分の**スケジュール提示を徹底**する

→スケジュール、視覚的手がかりを得られるようにする。安心感をベースに生活できるようにする。

○順次シンボル表示と音声FBのある手順表アプリに切り替える

→それを手がかりに活動できるようにしていく（自分で変更、修正できるスケジュールとして活用）

対象生の事後の変化（スケジュール）

4月に担任が主任を含め大幅に入れ替わった。

これまでの取り組みに理解
視覚的に伝えることを学級でも実践

スケジュールは**敢えて**手書き
学級での負担軽減を心がけた。

担任と朝のスケ
ジュール確認



対象生の事後の変化（スケジュール）

スケジュールは**敢えて**手書き
学級での負担軽減を心がけた。

ところが！

担任の先生も自発的にしっかりしたスケジュールを表を作成してくれた！



担任の先生が作って伝えてくれているスケジュール



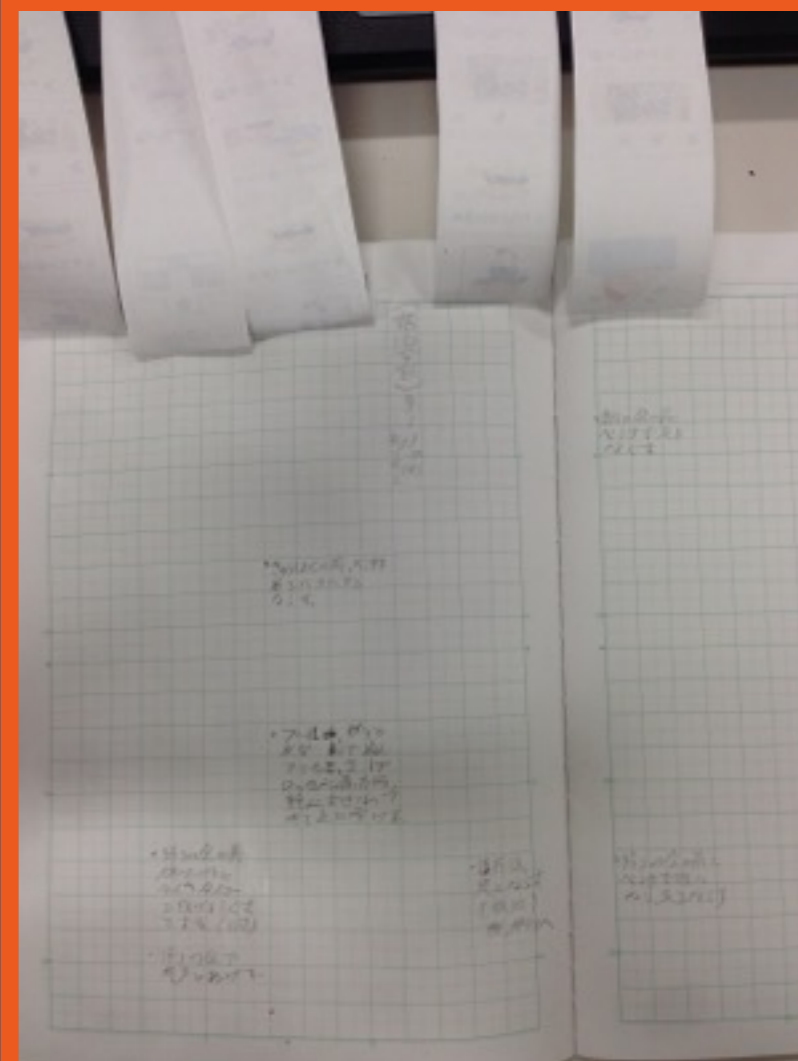
対象生の事後の変化（スケジュール）

さらに

担任の先生が独自の方法考案
スケジュールを再利用して、
活動の様子を記録



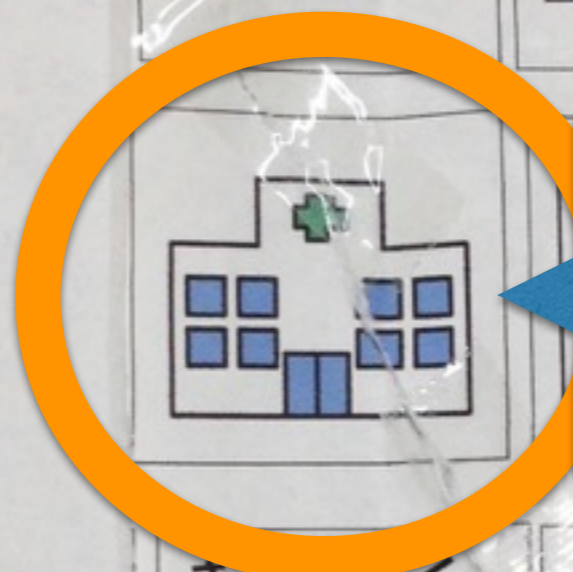
終わったスケジュールをノートに貼り、その下に不応適行動などの記録をつける



3日分スケジュール導入期



「病院」を破り取って、捨てた



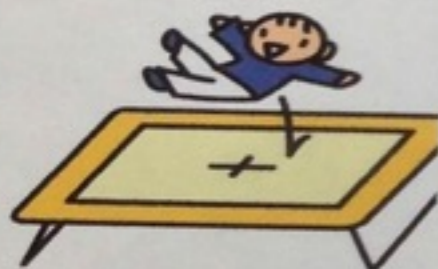
彼なりにシンボルで「伝えた」

ほん

と い れ



とらんぽりん



きゅうしやく



きゅうしやく



マッサージ



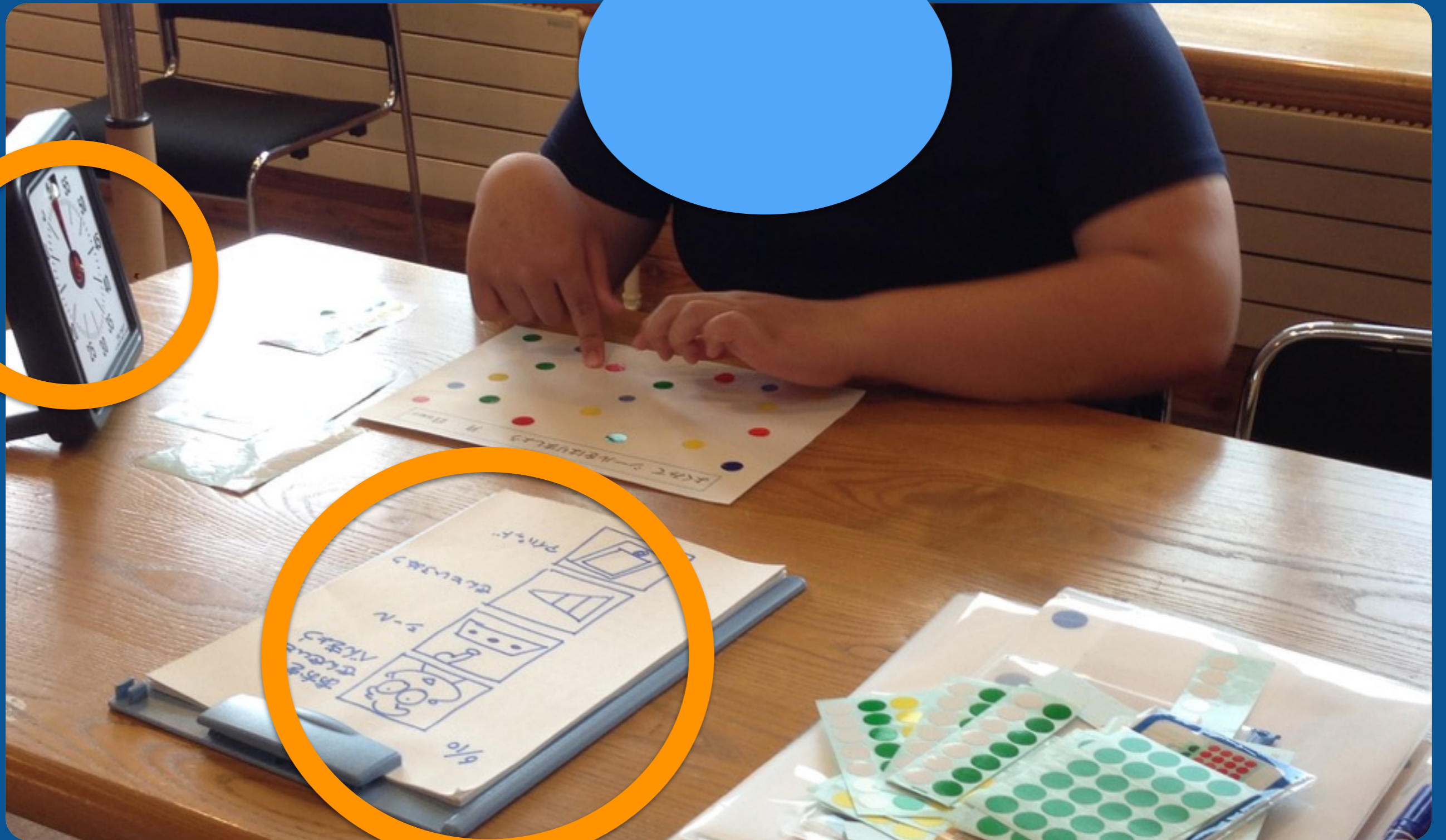
あおき先生とうんどう



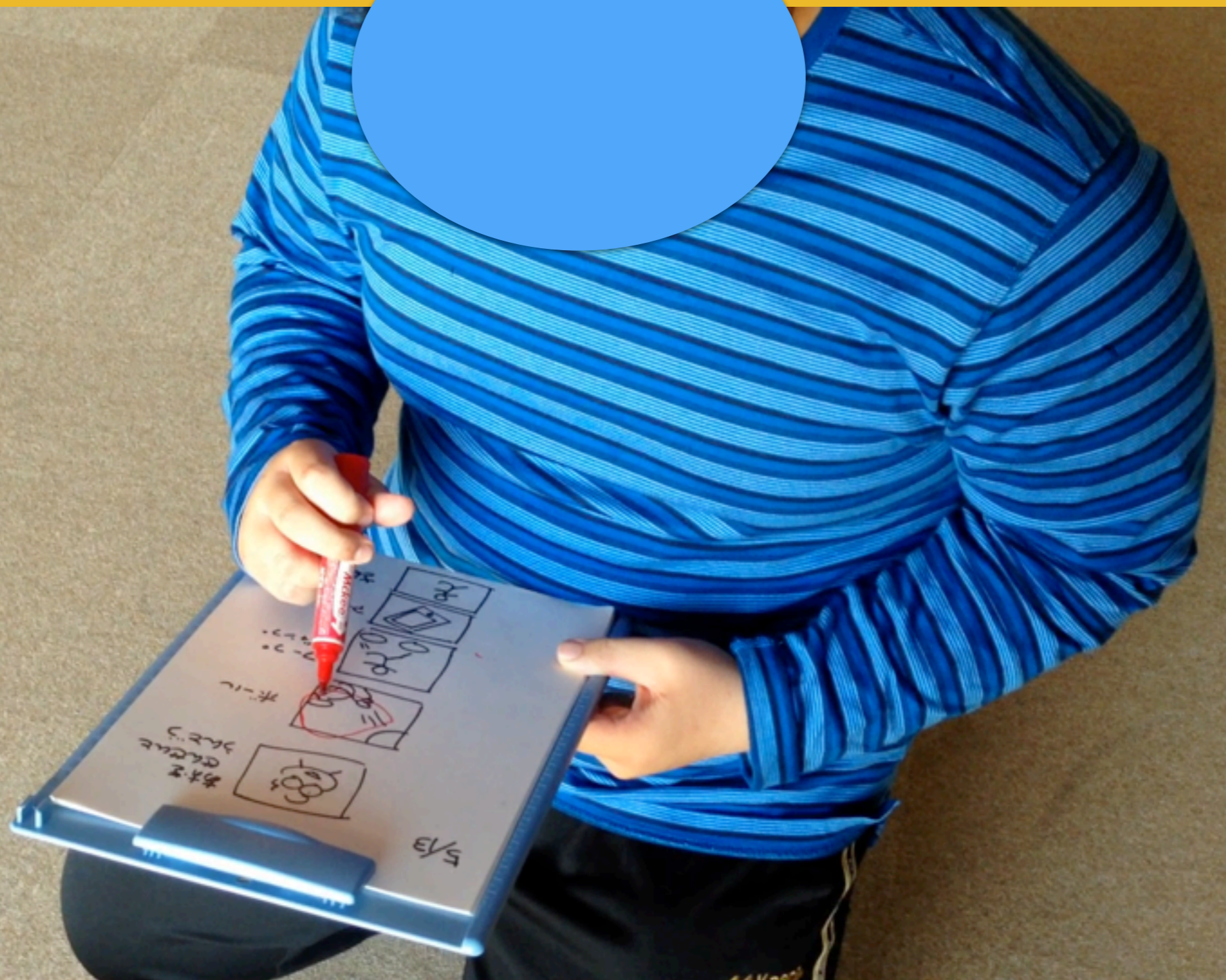
ちらしくぼり



個別の学習 視覚的スケジュール伝達



課題をクリア 自分で○



対象生の事後の変化（スケジュール）

個別の学習を楽しみにしてくれている様子が見られる。

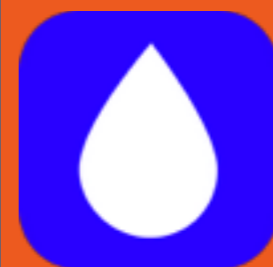
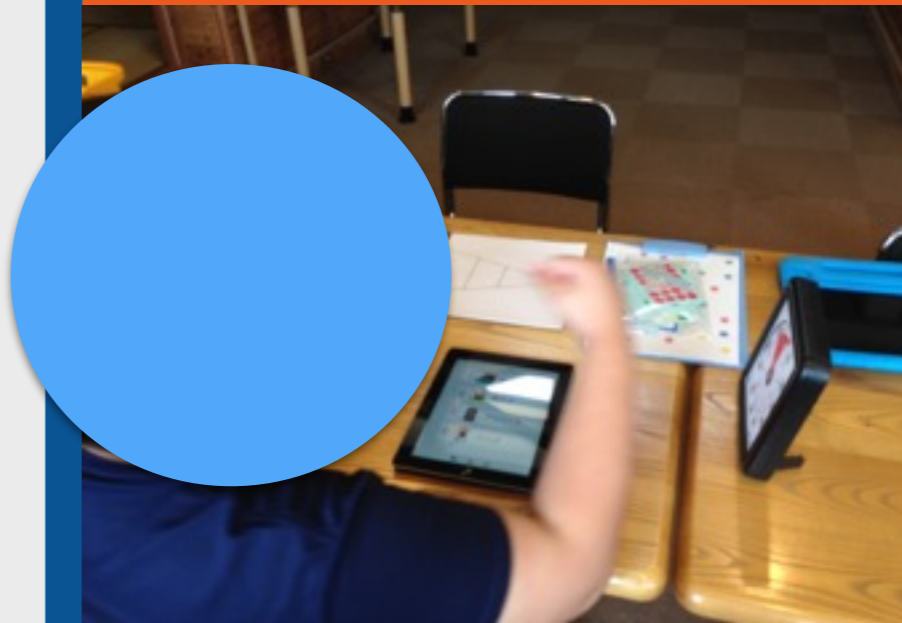
スケジュールの丸が自分で完璧に行えることを確認してから、DropTalk HDのスケジュール機能に移行。

シンボルを見て、音声FBを聞いてもらいながら予定を確認。

1回目から違和感無く活動

2回目から自分で完了チェック

スケジュールを
iPadへ移行



DropTalk HD

運動中の提示

運動中の提示



活動内容②

表出手段形成のための取り組み

- 自分の欲しいものや、やりたい活動を、写真とイラストの指さしで伝える場面を仕組む。
- 手順表アプリの操作を自分で行うことで、次の活動を自分で決定できる状況を作る。

対象生の事後の変化（表出）

自分の好みを伝える学習の一つとして、好きなパズルアプリを使って、以下のような活動を行う。

画像検索で「ラーメン」「ハンバーグ」など好きな語彙を入れる（支援者補助）

- 好みの画像を選ぶ
- 画像を保存
- ジグソーパズルメーカーで遊ぶ。

ジグソーパズル
メーカー



対象生の事後の変化（表出）

スケジュール選択場面で

「順番を自分で決める」

活動ができてきた。

パズルで画像選択する姿は

iPadを使っでの「選択」「伝達」に

スムーズにつながる可能性が感じられる。

スケジュールの入れ替え



スケジュールの中で楽しめるようになってきたKさん



活動の順番を選べるようになってきた



活動内容③

不適応行動に関する誤学習の修正

○身体プロンプトと視覚支援

→大声→頬を指さす

→他害行為→ハイタッチなど

○切り替えられたらトークンで即時強化し、推測される「訴えたいこと」を、シンボルの中から選べるような提示する（順次トークンをタブレット内で表示する）。

○学級、家庭でもしてトークンエコノミーを導入し、褒められる場面を意図的に増やして行く。

対象生の事後の変化（不適応行動）

不快なことがあった時の動きを、

- ・ 頬を指さす
- ・ 頭に手をのせる

という動作に切り替えることができつつある

（個別指導、寄宿舎ではその動きを確認）

活動内容④

講じた手だて

家庭用（余暇用）と学習用を
特徴があるケースで見た目で区別



アクセスガイド設定で他のアプリが使
えないようにする

あらかじめ使用時間を伝える

対象生の事後の変化（iPad再導入）

家庭から持ち込んだiPad

→すぐに動画を見始める状態

学習用iPad

→導入時にホームボタンを押して、他のアプリに切り替えたり、動画アプリを探したりする姿が見られたが、すぐにそういった行為は無くなった。

活用場面や使用方法を明確に区別することで、「iPad=遊び道具」という刷り込みを修正できる可能性を確認できた。

学習用iPadを理解させることは可能

逆に言えば、導入時に「どんな時に使う道具なのか」伝え方を十分に意識することが必要

ある日のこと（6月2日）

寄宿舎の泊まりのKさんが、放課後突然「支援室」に入ってきた。

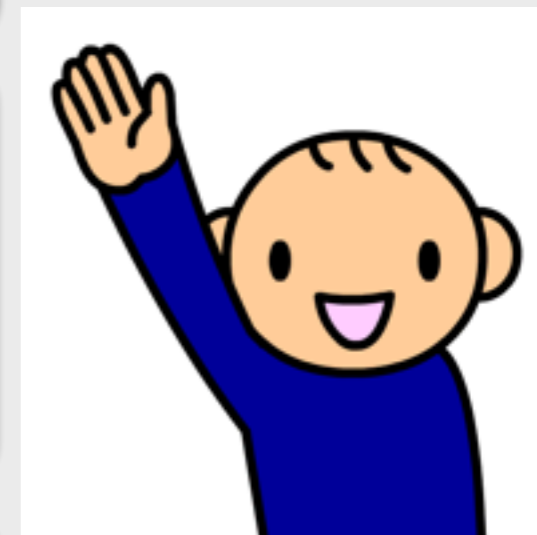
さかんに指差して何か訴えているので、とっさに前の席に座っていた先生がデジカメで撮影してくれた画像です。

（本資料には、画像は掲載されておられません）

ここまでの支援のまとめ



困っているKさん

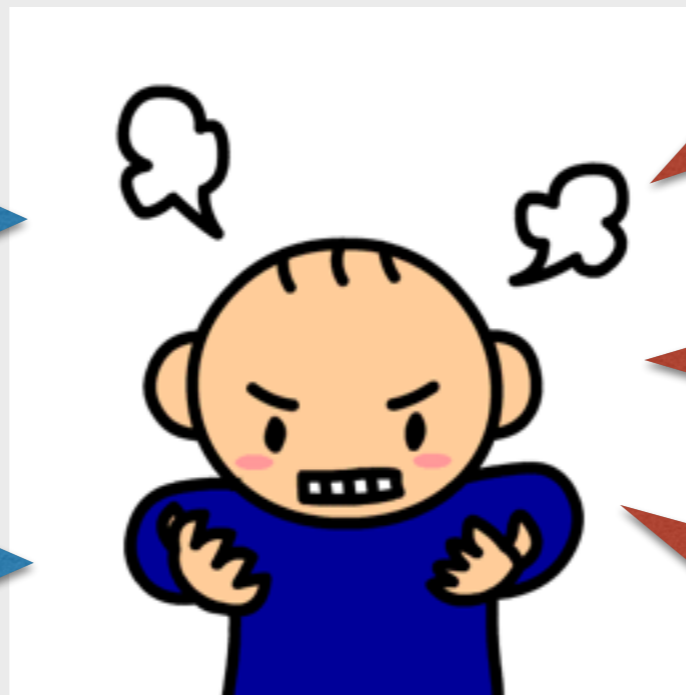


伝えられるKさん

Kさんの困難

分かるように伝えてくれない！
次になにやるのか不安！
なんか勝手な指示されるけど意味分かんない

伝えたいことあるのに、方法が無い！



意味分かんないから声出すと、注意される！

注意されて嫌な気分だから手を上げると、みんな何も言わなくなる

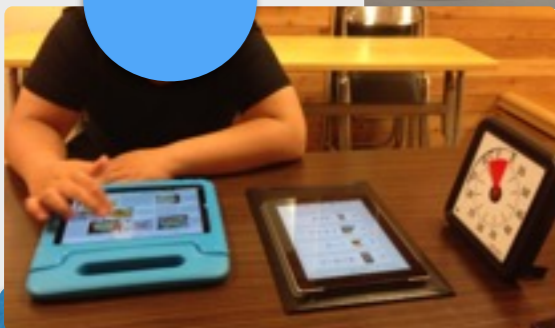
よく分からないけど、意味分かんないことやらされるよりいいか！



この悪循環

Kさんの困難の軽減

スケジュールで次にやる
ことが分かる！



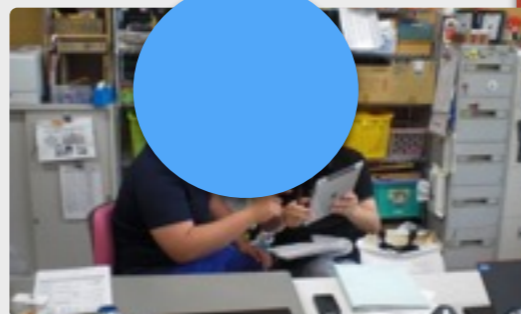
iPadや他の勉強も楽し
くなってきた。時間いっ
ぱい学習できるよ。



やることが分かってきた
から、イライラするこ
とが減った



嫌な気分の際は、頭に手
を当てれば、分かってく
れるんだね！指差しでも
分かってもらえるぞ



人に伝えよう、という気
持ちが出てきた

取り組みの方向

スケジュール理解

スケジュール提示と本人による選択で、自発的な参加を増やして行く

→スケジュールが理解すればできる、ということではないことも確認していく

表出手段形成のための取り組みと不適応行動に関する 誤学習の修正

家庭と連携したトークンエコノミーの導入を進める。

→評価の方法と記録形式、家庭でのバックアップ強化子の内容を決定していく。

iPadの再導入

予想以上にiPadの使い分けが上手くできているので、次の段階へ

→私物のiPadの中に趣味と学習のアプリを共存させ、使い分ける。

そして

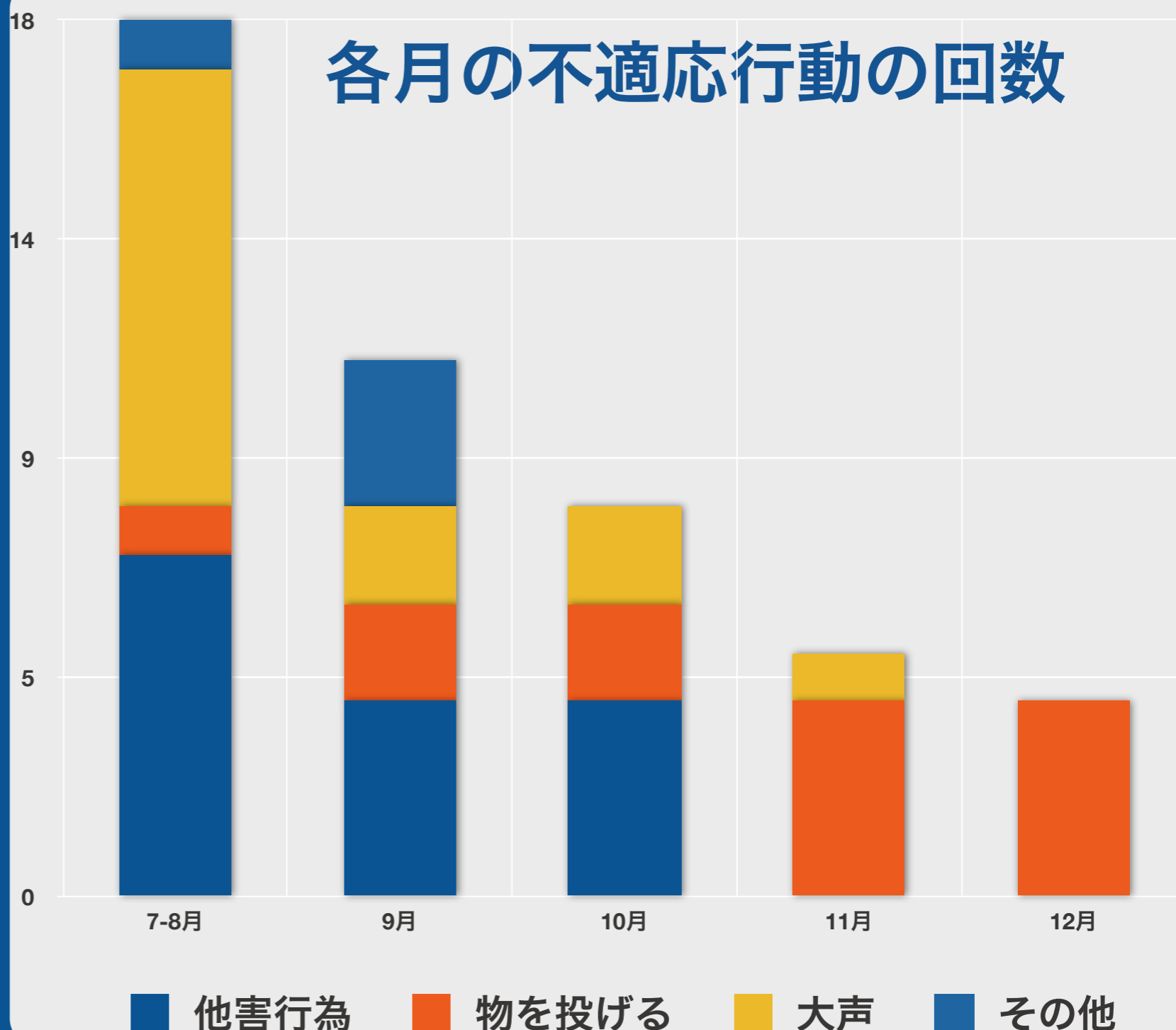
不適応行動は減少

人を叩くなどの他害
行為は11月以降消滅

活動時、活動後に物を
投げる行為のみが
残存

→「拒否」の表出手
段の不足？

各月の不適応行動の回数



本人のiPadに統合

学習の時は自分で
DropTalkを起動

余暇は教室のベン
チでビデオ

まとめ 困難はどこにあるのか？



その子の課題を適切に捉え、活用のポイントを見定める

当たり前のことだけど

その後の様子

すべての子どもたちに未来がある

Kさんの今年の取り組み

お母さんとの懇談

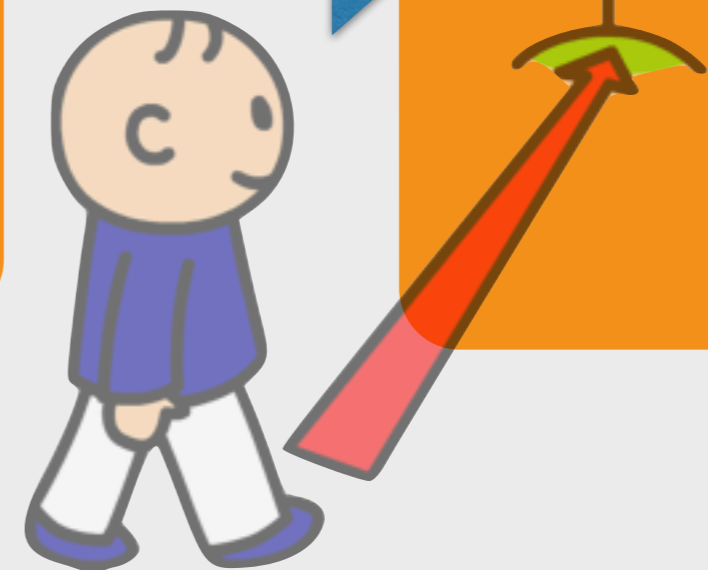
今年の課題：

家庭での不応行動にはどう対処すればいい？

家庭での代替行動の教え方、褒めるポイントを相談



今年7月現在
どうなったか？



今年の新たな取り組み

- Windowsタブレットを持って、地域の自覚障害学級を直接サポート

- 校内ではiPadを活用して更に「ひとりひとりがじっくり取り組める」学習環境作り



←水耕栽培+タブレットでじっくり栽培活動に取り組む

週に1回15分
半年間で自発的な指の動きが↓

